

2020 年 5 月吉日

会 員 各 位

ユニシス研究会

東 北 支 部

2020 年度『東北支部研究活動』メンバー募集のご案内

拝啓 日頃よりユニシス研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

この度の新型コロナウイルス感染拡大により様々な影響を受けられ、日々の活動の制限がある中努力を重ねられていることと存じます。

ユニシス研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題やこれからの I T を駆使した新たな働き方、A I などのテクノロジー活用をテーマに、会員同士や日本ユニシスグループ社員との情報・意見交換の場、また相互研鑽の場として、各種の研究活動を推進しています。

今年度の活動は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を考慮し、Web 会議を主体とした非接触型の活動が中心となる見込みです。従来の開催方法とは異なる運営となりますが、新たな活動形態へのチャレンジ、会議体への移動時間削減、テレワークによる参加のしやすさなどプラス面を積極的に活用し工夫しながら、ご自身の成長へつなげていただきたいと思います。

ビジネスヒント発掘や企業の枠を超えた新しい交流の場、人材育成の場としてユニシス研究会活動をご活用いただきたく、多数のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

【 添付資料 】

1. 「東北支部研究活動」メンバー募集・運営要領
2. ユニシス研究会「東北支部研究活動」参加申込書
3. 2020 年度研究活動 活動テーマ案（ご参考）

以上

【 添付資料 1 】

「東北支部研究活動」メンバー募集・運営要項

1. 参加資格

ユニシス研究会会員企業（会員企業の方であればどなたでも参加いただけます）

2. 研究テーマ案

『働き方改革』

アフターコロナを踏まえ、生活様式が変わるとともに働き方も改めて見直さなければならないのは、どこの企業でも同じかと思います。この状況だからこそ東北グループとしましては、「働き方改革」をご提案いたします。

実際には活動開始後にメンバー間で研究したいテーマを協議のうえ、決定いただきます。テーマ案は添付資料 3「2020 年度研究活動 活動テーマ案」をご参照ください。

3. 参加費

■今年度は昨年度までのリーダー、サブリーダー対象の宿泊型サマースクールは実施せず、インフラ環境の提供、発表会開催関連費用として、本年度に限り特別価格として研究活動費 1 企業あたり通常 ¥ 20,000 を ¥10,000 とさせていただきます。

* 参加人数にかかわらず、1 企業あたり ¥10,000 です。

* 参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。

■その他交通費・旅費等は、参加者の負担とさせていただきます。

4. グループの構成

■参加メンバー 5 名以上 10 名以下をもって 1 グループを構成します。

■構成メンバーの中から、「リーダー」「サブリーダー」を互選することとします。

■活動には、日本ユニシスグループより選出されたアドバイザーが参加し、研究活動を支援します。

■参加人数が少ない場合、関東支部の活動に参加することが可能です。但し、関東のグループの人数により、ご希望がかなわない場合もあることをご了承ください。

5. 年間スケジュール

開催予定日	開催内容
6 月 23 日（火） or 25 日（木）	発足式 & 第一回会合予定
9 月頃	中間報告
1 月末 予定	活動報告書提出
2 月上旬～中旬 予定	東北支部発表会
3 月 5 日（金）	全国発表会

6. 活動期間と会合回数

■活動期間は本年 6 月から翌年 2 月末までとします。（※全国発表会を除く）

- 期間中、原則月1～2回の会合（半日）を持ちますが、詳細は別途グループ運営の中で決定します。
- 第1回目の会合は発足式を兼ね、**2020年6月23日（火）または25日（木）の午後**を予定しております。（Teams会議を利用）
正式にはメンバー確定後、メンバーのスケジュールを調整しご連絡いたします。
- 来年1月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。
※研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力のもとより、実用性、有効性、先進性、独創性、独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。
- 来年3月5日（金）に「研究活動成果発表会」としてグループメンバー以外の方々に向けて発表をしていただきます。（状況により発表形態は変更になる場合があります）
9月頃を目途に中間報告を実施していただきます。研究テーマに対する知識や技術を具体的な課題を解決する為に、仮説を立て今後のアプローチ・方向性をグループ内でしっかり議論してその内容をご報告いただきます。
テーマ選定にあたっては、テーマに関しての知見取得に時間を費やし、ストーリーを組み立てられなくならないように、グループ内で工夫していただき、アドバイザーの助言を得ながら進めてください。

7. 活動運営について

- 研究活動の企画・運営は参加メンバーの自主運営とします。
- 会合はWeb会議を主体といたします。
※ご参考までにOffice365未導入の方のTeams会議参加方法をご案内いたします。
Teams会議参加方法（Android編、iOS編、Windows編）
https://www.yuni-ken.gr.jp/whatsnew/data/ms_teams_guides_2020.zip
- 研究成果は、「研究活動発表会」や「全国カンファレンス」等で発表していただくことがあります。
- 特に優れた成果には、「エッカート賞」やその他入賞制度の受賞候補として推薦されます。
- ご報告いただいた研究活動成果（研究活動報告書、プレゼン資料その他発表資料を含みます。）の著作権は著作者に帰属するものとします。但し、著作者は、ユニシス研究会が情報発信する機関誌やWebサイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含みます。）をユニシス研究会に無償で許諾するものとします。

8. 申込方法

添付資料2の「参加申込書」にご記入の上、**6月12日(金)迄にメールまたはFAXにて**お送りください。

9. お問い合わせ先

日本ユニシス（株）東北支店内
ユニシス研究会東北支部事務局 清水・川島
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 東二番丁スクエア
E-mail: touhoku-box@ml.unisys.co.jp
TEL:022-706-2503 FAX:022-224-2981



以上

【 添付資料 2 】

ユニシス研究会東北支部事務局 行

FAX : 022-224-2981 ・ 電子メール : touhoku-box@ml.unisys.co.jp

ユニシス研究会「東北支部研究活動」参加申込書

■ 【個人情報の取り扱いについて】

【個人情報のお取り扱いについて】ご記入いただくお客さまの個人情報は、日本ユニシス株式会社及びグループ企業並びにユニシス研究会が、1) 本セミナーに関する連絡・確認、2) 関連製品・サービスに関する情報提供、3) イベント・セミナーなどのご案内および 4) マーケティングの目的で利用させていただきます。お客さまの個人情報については、当社の「個人情報保護基本方針」に従い取扱うものとし、適切な管理と必要な保護を行います。なお、個人情報の開示、訂正、削除、情報提供の停止等のお申し出、その他ご質問がございましたら、下記の問合せ先までご連絡ください。

* 日本ユニシス個人情報保護基本方針 : <https://www.unisys.co.jp/com/privacy/>

* 日本ユニシスグループ企業及び各社個人情報保護方針 : <https://www.unisys.co.jp/com/group.html>

* 当社グループ企業への個人情報の提供、共同利用について https://www.unisys.co.jp/com/privacy/o_group.html

* ユニシス研究会の個人情報について : <https://www.yuni-ken.gr.jp/privacy.html>

* 当社サイト上におけるCookieおよびWebビーコン、アクセスログについて : <https://www.unisys.co.jp/com/privacy/index.html#web>

上記の個人情報取り扱いについて同意頂けましたら、下記「個人情報の取り扱いに同意して申込む」のチェックをお願い致します。

☐ 個人情報の取り扱いに同意して申込む

【個人情報管理者】ユニシス研究会 事務局 事務局長

【お問い合わせ先】ユニシス研究会東北支部 事務局 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25 東二番丁スクエア

TEL : 022-706-2503 電子メール : touhoku-box@ml.unisys.co.jp

■ 【ご参加者】

※複数名参加も可能です（複数名ご参加の場合は本紙をコピーの上ご利用下さい。）

会 員 名			
電話番号	()		
FAX 番号	()		
フリガナ 参加者名		所 属 役職名	
メールアドレス			
フリガナ 参加者名		所 属 役職名	
メールアドレス			

2020年度活動テーマ案

	キーワード	募集対象	テーマタイトル案	推薦する理由ならびに活動内容
1	パンデミック	ユーザー企業の 情報システム部門	パンデミック発生！その時 IT部門はどうする？	2020年は新型コロナウイルス感染症の対策として、時差通勤や在宅勤務を行うような要請が政府からも推奨されているが、いざ行おうとすると、企業によってはPCをシンクライアント化していないために在宅勤務が出来なかったり、社内と社外で利用回線が異なるため、社員全員が社外でPC端末を使うとネットワーク的に問題があるなど、想定外の課題が発生し、速やかに対処できない企業も出てくる。 IT部門として、普段からどういう準備を進め、発生した時にはどのような事を行うのか、また将来、IoTなどうまく活用するアイデアがないかなど、IT目線で探求する（オリンピックや万博のような話を絡めて可）。
2	5G	ユーザー企業の 情報システム部門 企画部門	5G／ローカル5Gで社会がどう 変化するか、5G環境を活用した 新たなサービス、ビジネスの創出	最近、5G／ローカル5Gの実証実験が各種分野で行われている。 5Gは、次世代の通信インフラとして、「高速大容量」、「高信頼・低遅延通信」、「多数同時接続」という3つの特徴を軸に、社会に大きな技術革新をもたらすといわれている。 中でも、ローカル5Gは、その利用局面もエンターテインメント、医療等、多分野にわたり今後、大きな展開が期待できる。 5G／ローカル5Gでインフラを含めて社会の変化について探求し、新たなサービスやビジネスを創出する。
3	サブスクリプション	ユーザー企業の 情報システム部門	サブスクリプション型ビジネス を考える	ソフトウェアや音楽、動画などデジタルサービスでは当たり前となっている「サブスクリプション型ビジネス」であるが、既存のビジネスにおいてもデジタルトランスフォーメーションの波を受けて大きく変わろうとしている。この「必要に応じて必要な量だけのサービスを提供する」ビジネスモデルに代わるためにはどのような仕組みが必要になるか、どのように変えなくてはならないかをを研究する。
4	eスポーツ	IT企画部門の管理 者・担当者、事業部門	eスポーツ	東京オリンピック開催を控え、新たなスポーツとして注目されている「e-スポーツ」。異業種参入などこれから大きなビジネスチャンスになっていく分野として注目されている「e-スポーツ」をテーマに、具体的に分野を取り上げて実現までに至るアイデアを研究する。
5	キャッシュレス	IT企業のSE ユーザー企業の情報シ ステム部門	XXペイ社会に移行するに は	日本のキャッシュレス化は世界の水準から大きく後れを取る。2019年時点でも25%前後という統計結果も出ている。これは中国の65%や韓国の90%超などと比較すると著しく低い。貨幣の信頼性の問題も絡むが、販売物流ビジネスのスマート化を図るには非常に重要なソリューションである。昨年各社が競ってサービスを打ち出している「何とかPay」は、少々乱立気味ではあるが、これらのサービスの特徴を分析し、日本のキャッシュレス化を推進するためのアイデアを探求する。
6	AI	情報システム部門 企画部門、事業部門 業務部門	人工知能を活用した企業内 におけるデジタルトランス フォーメーション	データと人工知能を活用した、業務の生産性向上や省人化を始めとする、社会課題を解決するサービス創出について、調査・検証を通じて、次業務への適用や活用に向けた提言や実証を行う。 画像認識や音声認識等の活用事例で深層学習への注目が拡がる中、要素技術やツールに関する情報は増えてきているが、深層学習を適用する際のプロセスについては情報が少なく、担当者のスキルやAIベンチャー等の専門家に依存するところが大きい。そこで深層学習の業務適用に向け、必要なプロセスや手順等のワークフローについて取りまとめる。
7	音声認識	IT企画部門の管理 者・担当者	音声認識技術を活用したビ ジネスの創出	AIアシスタント機能を搭載するスマートスピーカーが急速に普及し注目されている。 「音声認識技術」の最新動向や活用事例について調査し、業務効率化への活用や新たなビジネスの方向性について研究する。
8	データの利活用・ デジタル人材の育成	情報システム部門 事業部門 人材育成部門	企業内・外に存在する データを組み合わせ、 新ビジネスについて考える	内閣府が提唱するSociety5.0実現に向けて、PDS（Personal Data Store）、情報銀行、データ取引市場という新たなデータ流通の仕組み・データ利活用が活性化してきており、既存の企業内データ、オープンデータや新たに収集できるデータを組み合わせ活用することで、新ビジネスの創出や社会課題の解決などを検討する。 またビッグデータ活用におけるデータサイエンティストやデータアナリストなどのデジタル人材育成の重要性が高まっています。それら人材育成における課題や育成方法について調査・検討する。
9	品質管理 (プロジェクト管理)	ユーザー企業の 情報システム部門	結構どこにでもある「動かない コンピュータ」問題 我々はなぜ同じことを繰り返 してしまうのか？再発防止は できないのか？ 苦戦プロジェクトから学ぶ 品質管理について研究する。	昨今、複雑で高度なシステム化案件が増える中、日経コンピュータ誌の記事「動かないコンピュータ」のできごととは、まさに他人事ではないと感じている。どこ会社でも動かないまでも、相当苦戦したITプロジェクトがあると思われる。そこで、それぞれの会社から過去の苦戦したITプロジェクトの分析結果を寄せ集め、今後同じような苦労や失敗を繰り返さないために「教訓集（解説含む）」を作る。例えば、「ストコン開発をなめると大苦戦」、「プロジェクトの期間が長すぎると迷走する」、など。 真の原因を簡素なメッセージ化するために、問題分析手法、失敗学（上位概念化）などの手法を学ぶ機会にもなると良い。
10	セキュリティ	ユーザー企業の 情報システム部門	働き方改革における企業の セキュリティ対策	企業に働き方改革が求められるようになり、様々な機器、ワークスタイルで時間、場所に囚われずに仕事ができるような環境が整ってきている。その一方で、企業の機密情報や個人情報などが漏えいする危険性は高くなる。このようなワークスタイルの変革の中で企業が実施すべきセキュリティ対策について研究する。
11	高齢者活用	ユーザー企業の 情報システム部門、人 事総務部門	高齢者（再雇用）の有効活 用	各企業は、再雇用により高齢者社員をどう活用するか試行錯誤しながら取り組んでいる。今後定年延長などにより益々人数が増加していく環境において、会社、高齢者社員、現役社員すべてがハッピーになる活用策を研究する。（IT業界）
12	働き方改革	ユーザー企業の 情報システム部門	働き方改革へのIT の果たす役割	ワークスタイル変革の流れの中で、2020東京オリンピック開会式を「テレワークデー」と定め、業務実態に合わせて、在宅勤務／モバイルワーク／サテライトオフィス勤務等のテレワーク勤務を推奨するなど、「働き方改革」は早期実現が必要な重要課題である。 現在はスマートフォンなどのモバイルデバイスや最近ではウェアラブル端末やAIスピーカーなど身近になりつつあるデバイスの変化にも対応しそれらを利用した働き方の見直しも想定される。又、総務省も企業が働き方改革を進める中で、ビジネス用途のチャットツールを導入する企業は増加していくと予想しており、今後も注視していく必要があると展望している。 そんな中、活用シーンがどの様に変化し、そこでITがどの様な役割を果たすことができるのかについて探求する。